

網膜疾患に対する 最新レーザー治療

—イエローパターンスキャンとマイクロパルス閾値下凝固—

Novel methods of laser treatment:
Yellow pattern scan and subthreshold micropulse laser photocoagulation

2012年4月7日(土) 12:50~13:50 Room6 (東京国際フォーラム Hall D7)

オーガナイザー

日下 俊次 先生 近畿大学医学部堺病院 眼科 教授

今、網膜疾患に対する新しいレーザー治療が注目されている。パターンスキャンレーザーとマイクロパルス閾値下凝固である。パターンスキャンレーザーとはこれまでのレーザーの照射方法(クラシック方式)とは全く違い、複数のレーザースポットを照射時間 20-30ms といった極めて短時間で一気に照射するものである。この方式を用いると汎網膜光凝固がクラシック方式よりもはるかに早く施行できる。また、組織障害が網膜外層に限局し、網膜内層や脈絡膜への障害が小さく、患者の疼痛が少ないといったメリットがある。今回ご紹介する Supra 577.Y は黄斑色素に吸収されにくく、散乱も少ない 577nm の波長を用いてパターンスキャンレーザーが可能となった画期的な装置である。もちろん、クラシック方式の照射も可能である。一方、マイクロパルス閾値下凝固は網膜色素上皮を選択的に、凝固斑が観察できない程度の出力で照射することで黄斑機能を損なうことなく浮腫改善が図れる方法である。今回のセミナーでは、東京大学の加藤聡先生にパターンスキャンレーザーの適応と限界についてお話し頂き、聖路加国際病院の大越貴志子先生にはマイクロパルス閾値下凝固について、最後に私が Supra 577.Y の使用経験について報告したいと思います。現在、そして近未来のレーザー治療の方向性を示すことができれば幸いです。皆様、奮ってご参集ください。



講演 1

パターンスキャンレーザーの適応と限界

Indication and limitation of pattern scan laser photocoagulation

加藤 聡 先生 東京大学大学院 眼科・視覚矯正科 准教授



講演 2

非侵襲的レーザー治療戦略—マイクロパルス閾値下凝固

Strategy for non invasive laser technique-Subthreshold micropulse laser photocoagulation

大越 貴志子 先生 聖路加国際病院 眼科部長



講演 3

577nmイエローパターンスキャンレーザーの使用経験

Clinical experience of yellow pattern scan laser photocoagulation

日下 俊次 先生 近畿大学医学部堺病院 眼科 教授

ランチョンセミナーは整理券制です。

受付日時：セミナー当日7:30~11:00

配布場所：東京国際フォーラム ガラス棟B1 ロビーギャラリー
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号